

「第2回 全国風穴サミット in 出雲」の報告

地域振興研究分科会 石崎 正信

1. はじめに

地域振興研究分科会は平成25年度から、出雲市佐田町にある「八雲風穴」を研究テーマに取り上げてきました。平成26年には長野県大町市で「第1回 全国風穴小屋サミット」が開催され、県技術士会から分科会の嘉藤剛さんが参加されました。

この第1回のサミットには、八雲風穴の管理組織である「風太郎」の方々も参加され、第2回サミットを出雲市で開催する経緯は、昨年度嘉藤さんの報告にあったように「風太郎」のメンバーの方々の情熱と行動力に他ならなかったようです。

2. 風穴サミットの報告

第2回となるサミットは平成27年8月29日に、出雲市佐田町の出雲須佐温泉「ゆかり館」と八雲風穴、須佐神社を舞台に、全国12都県から130人の参加者を迎えて開催されました。

サミットは3部で構成され、

・第1部 シンポジウム

開会式

基調講演（5題）

ポスターセッション

パネルディスカッション

・第2部 風穴見学会

・第3部 交流会

というプログラムでした。

ここでは、基調講演の内容を中心として風穴サミットの様子を報告させていただきます。

第2回 全国風穴サミット in 出雲
2015 8.29(土) 島根県出雲市 八雲風穴 ゆかり館
参加費 2,000円・弁当代 1,000円
交流会費 4,000円 (宿泊費は別途)

■プログラム (3部構成)
9:00 風穴見学 (希望者のみ)
■第1部 シンポジウム (10:00～15:30・参加費2,000円)
10:00 開会式 会場：出雲須佐温泉ゆかり館
10:30 基調講演①「演題：日本風穴あれこれと山陰の風穴」
講師：清水 長正 氏 (駒澤大学、日本地理学会)
10:55 基調講演②「演題：風穴のしくみ」
講師：澤田 結基 氏 (福山市立大学)
11:20 基調講演③「演題：地元の取り組み」
講師：柳原 秀雄 氏 (八雲風穴風太郎会長)
飯田 聖二 氏 (島根県技術士会)
11:45 基調講演④「演題：未定」
講師：大河原 剛次郎 氏 (群馬県下仁田町)
12:10 ポスターセッション (昼食時を含む、弁当代1,000円)
※ポスターによる研究発表、各施設紹介、意見交換
14:00 パネルディスカッション テーマ「風穴の利活用を考える」
司 会：澤田結基氏 (駒澤大学)
パネリスト：清水長正氏 (駒澤大学)
判野 豊氏 (九州大学大学院)
林 正久氏 (島根大学)
島村幸典氏 (大田市大館郷土博物館)
宮本宏夫氏 (NPO 流入地域づくり工房)
柳原秀雄氏 (上田市)
柳原秀雄 氏 (風太郎)
■第2部 風穴見学会 (16:00～17:30) 須佐神社、八雲風穴
■第3部 交流会 (18:00～20:00)
会場：出雲須佐温泉ゆかり館 (参加費4,000円)

自然の恵、風穴の活用を進める
全国仲間ネットワークづくり、
神々の国、神話のさと出雲
須佐之男命ゆかりの地への
お越しをお待ち申し上げます。

八雲風穴・風太郎くん
黒山
日本海
出雲大社
出雲須佐温泉ゆかり館・須佐神社・八雲風穴

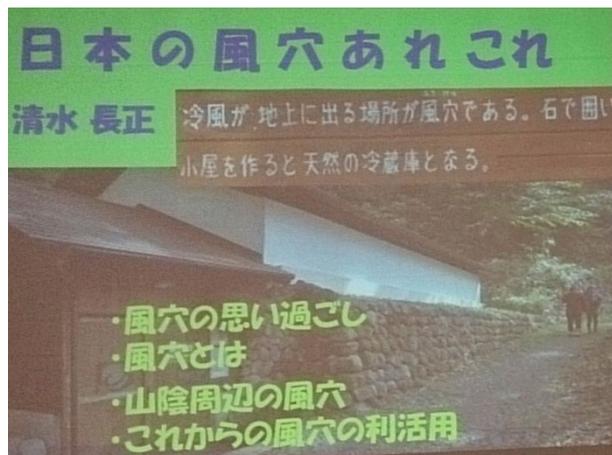
■主催：全国風穴サミット実行委員会 ■後援：島根県、出雲市、出雲観光協会、出雲ホテル連絡協議会、各報道機関
■お問合せ先：須佐コミュニティセンター TEL:0853-84-0113・FAX:0853-84-1466 (土日祝日を除く9:00～17:00)
(〒693-0506 島根県出雲市佐田町反辺 1747-6 E-Mail: susa-cc@local.city.izumo.shimane.jp 八雲風穴ホームページ http://www.wind-cave.jp)

(1). 基調講演

① 日本の風穴あれこれと山陰の風穴 (講師：清水長正氏／駒澤大学)

清水先生は、日本の風穴研究の第一人者として、防災技術者として風穴の概念と地形・地質条件を説明され、歴史的には江戸期から天然の冷蔵庫として利用が始まり、明治期以降に隆盛を迎えた蚕の卵（以下、蚕種）を貯蔵するための風穴について、そ

の歴史的変遷と全国の分布状況を、これまでの調査・研究の成果として報告いただきました。山陰地方では、八雲風穴の外に鳥取県三朝町の三徳風穴、大山町の大山風穴、島根県では江津市桜江町の八戸風穴、津和野町の青野山風穴などが知られているそうです。また、風穴の未来へ向けた活用として、冷蔵倉庫としての復元や人工風穴の開発、植物栽培、災害による停電の影響を受けない生命資源の貯蔵・保管などを紹介されました。



② 風穴のしくみ (講師：澤田結基氏／福山市立大学)

澤田先生からは、科学者の立場からスロバキアにある世界遺産の大風穴など様々な事例を基に、より詳しく風穴の冷える仕組みについて解説をいただきました。また、次のような知見を報告されました。

- ・日本の風穴の多くは保冷剤として年間を通じて氷が存在する (八雲風穴では?)
- ・風穴は夏に冷風穴となり冬は温風穴となる。八雲風穴において温風穴を新発見!

年間を通じて氷の存在する風穴の分布南限は、今後の研究課題とされましたが、八雲風穴ではその地下水である福寿泉の年間を通じた恒温性などに関連して、夏期の氷の存在に関心が持たれます。温風穴は地域振興研究分科会でも昨年の2月に坂田さん、嘉藤さんによって確認されていますが、地元のみなさん誰もご存じのない新発見でした。



③-1 八雲風穴の歴史 (講師：勝部秀雄氏／風太郎会長)

今から約500年前に八雲風穴に隣接する寺院「福泉坊」が開山され、山の名が「清涼山」と命名されたことを起点に、風穴の歴史を養蚕家の出現と蚕種保存、営林署の樹種保存、食品保存と役割の変遷とともにご説明をいただきました。施設としては明治期の石室の建設から上屋の建設を経て現在に至る状況を解説いただき、平成元年から地元有志による新たな観光利用が順調に推移しているとの報告がありました。



(アトラクションで安来節を唄う勝部会長)

平成元年以降の有料入場者数の推移は下記のとおりです（講演資料より）。

H元年	H6年	H10年	H22年	H23年	H24年	H25年
2,428	7,263	5,906	21,237	17,658	18,236	17,675

③-2 地域の取り組みについて（講師：坂田聖二氏／島根県技術士会）

（省 略）

④ 世界遺産となった荒船風穴（講師：大河原順次郎氏／群馬県下仁田町）

講師は下仁田町で文化財保護を担当する方で、平成26年6月に「富岡製糸場と絹産業遺跡群」の一つとして世界遺産となった「荒船風穴」の歴史について、豊富な資料を基にした説明がありました。

荒船風穴は蚕種貯蔵施設として1号風穴を明治38年に起工して営業を始め、大正3年には3号風穴を完成させ、全盛期には全国の蚕種の1割程度を貯蔵する規模を誇っていたそうです。



（荒船風穴のジオラマ模型）

荒船風穴は圧倒的な規模と世界遺産というブランド力を持っているのですが、大河原さんは八雲風穴をとっても高く評価しておられるようでした。その理由は風穴の利用が絶えることなく地域の日常生活の中で歴史を繋いで来たこと、大学や技術士会が調査・研究の対象として注目し成果を発表していることなどでした。

(2). ポスターセッション

基調講演とパネルディスカッションの間には、ポスターセッションが行われ、秋田県大館町の長走風穴、八雲風穴で清酒の熟成を行っている酒造会社、島根大学のくにびきジオパーク・プロジェクトセンター、島根県技術士会などの展示が行われました。

中でも、技術士会の展示は2年余りに及ぶ調査の新しい知見や、嘉藤さんの力作である風穴模型など参加された皆さんの目を引き、熱心に質問される方が多く昼食の時間もとれないような状況でした。



（技術士会 P.S. の前に立つ坂田分科会長）

(3). パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、進行役の澤田先生を中心に、講演者、ポスターセッション展示者、前回(長野県大町市)と次回(長野県上田市)のサミット開催地の方々をパネリストとして風穴の利活用を中心に意見が交換されました。



九州大学大学院の伴野先生は、昨年が続いてサミットに参加され、蚕を専門とする生命科学者の立場から、東日本大震災を教訓とする生物遺伝子資源の分散管理のため風穴を利用することになったとの報告がありました。蚕の場合、毎年孵化させて更新保存しており、孵化率は大学の冷蔵庫より風穴の方が高いとのことでした。その理由は風穴内空間の安定した高湿度と清浄さにあるのではないかと仰っていました。

その他にも各地の実例や、円滑な利活用のためには関係者の相互理解が必要不可欠であることなどが紹介されました。

(4). 現地見学会

この日は曇り空の一日で、8月とはいえ風穴の存在を訴えるには少し残念な天候でした。バスで風穴の駐車場へ到着し、広場で勝部会長の概要説明。流紋岩で積まれた石室に入ると10度を大きく下回る温度でした。辺鄙なロケーションにあっても、地域の冷蔵施設として観光施設として日常生活の中で活用されている状況に参加の皆さんは驚きの様子でした。



風穴周りのことについても、地下水の状況、温風穴の位置、周辺の地形・地質などに関して風太郎の皆さんや技術士会に多くの質問が寄せられました。

風穴からの帰路では途中、サミット会場隣の須佐神社に寄って「須佐語りべの会」のメンバーの方から、御祭神や「七不思議」について説明を受けました。

(5). 懇親会

懇親会の圧巻は、子供たちによる勇壮な須佐太鼓と全国優勝のドジョウすくい



の披露でした。また、実行委員の方々もプロ並みの郷土芸能を披露されました。

懇親の席では全国から「風穴」をテーマに集った皆さんが、世界遺産登録やサミットの開催をきっかけとして、その忘れられようとする歴史に再び関心が向けられ、今後の利活用が進むことを願って熱く一献を傾けておられました。

3. おわりに

(1). 新刊書「日本の風穴」の話題

このサミットの開催にタイミングを合わせ地理・地学の専門書を数多く発行されている、株式会社古今書院さんにより「日本の風穴」(清水先生、澤田先生の共著・編集)という新刊書の刊行が予定されていました。残念ながらサミットには間に合わなかったようですが、10月30日に出版され、古今書院さんの11月の新刊販売部数ではトップを達成されたそうです。風穴というマイナーなテーマで価格も¥5,500円と高価だったのですが、サミットに参加された古今書院の担当者の方から喜びにあふれたメールが届きました。12月には4位になったとか・・・



(2). 八雲風穴について

研究分科会の活動と風穴サミットを通じて「八雲風穴」の特徴を再認識しました。それはかつて、全国で数多くあった風穴の殆どが時代の変化によって役割を終え荒廃していった中で、八雲風穴はその利用目的が時代とともに

蚕種貯蔵 → 樹種の保存 → 食品貯蔵 → 観光利用 (+地理・地学教材!)
と変化したものの、ずっと現役の施設として役割を果たし続けて来たことです。

私はその理由について、

- ・集落の中に存在したこと
- ・豊富で清澄な地下水資源と風穴が一体だったこと
- ・日常的に多くの人が集まる寺院が直近にあったこと
- ・周囲が鎮守の森として維持・保全されてきたこと

等ではないかと考えています。

この度の調査で佐田町にある他の風穴も、冷風源として家庭利用が継続されている2箇所を除けば、存在は知られていても利活用されていない風穴、あと5～10年程すれば歴史の中で忘れ去られようとする風穴などを再確認することが出来ました。

地域振興研究分科会の成果が風穴の歴史を記録にとどめ、実態の把握と地域振興の一助となるよう今後も風穴の研究・調査を継続していきたいと思っています。

全国風穴サミット in 出雲 に関連する画像



開会式での長岡市長の挨拶



勝部会長の説明に耳を傾ける参加の皆さん



野蚕いろいろ

(九州大学大学院 伴野豊准教授のニュースレター「おかいこさま」より)